

特許出願公告及特許拔萃

特許出願公告拔萃

燒戻硬化せしめたる Co 青銅 (10 年特許公告第 1296 號、公告、10-4-8、京都市、化學研究所長) 燒戻状態に於ては軟質なるも燒戻によりて硬化する Co 青銅を得んとする目的を以て、Sn 5-20%、Co 0.5-50% 殘部銅及之等の不純物を含有する燒戻硬化せしめたる Co 青銅

團鑄の製造方法 (10 年特許公告第 1352 號、公告 10-4-10、東京市、日置雅章) 此等結合劑の併用によりて主劑たる煤煙の使用量を節減し而も其の單獨使用の場合に比して遙に粘結力を増大せしめ一層硬固なる團鑄を煉製し得ると同時に團鑄中の煤粉を定着せしめんとする目的を以て、無定形炭素微粒子たる煤煙類の水膠質溶液、懸濁液を結合主劑となし之にパルプ、和洋廢紙等の纖維物質を結合副劑として加へ又は加へずして更に CaO、CaCO₃。其の他の Ca の無機及有機膠質鹽類を同じく粘結副劑として併用し諸金屬の自然鑄及選鑄精鑄の砂鑄、粉鑄、泥鑄等を、煉結せしむる團鑄の製造方法。

人造絹絲出用嘴頭 (10 年特許公告第 1387 號、公告 10-4-12 神戸市、株式會社川西機械製作所) 耐酸、耐アルカリ性にして金又は白金合金製の嘴頭の代用品となり得る廉價の嘴頭を提供せんとする目的を以て、W₃C 系合金又は W の粉末に Co 粉末又は Cu 粉末の銲着劑を附加し之を型内に於て壓搾型成したる後爐中にて燒固整形せしめたる人造絹絲紡出用嘴頭。

金切鋸機 (10 年特許公告第 1391 號、公告 10-4-12、東京市森田龜吉) 從來知られたる高速度金切鋸機に比し優に迅速に金屬棒又は管の如きを切斷し而かも少しも鋸齒を損傷せしむる事なく且つ鋸身の前進又は後退に對し自由に仰角を變更せしめ以て鋸齒の壽命を著しく永からしめ得べき鋸機を容易に得んとする目的を以て金屬切鋸を備ふる鋸鉋に導針を固着し該針は導溝内に摺動すべくなし右鋸鉋には連結針を取付け連結針は之を曲柄軸に固着せる曲柄に連結せしめて成れる金切鋸機に於て前記導針と金屬切鋸とを平行せしむることなく任意の角度を保持せしめ被切斷材料の硬軟大小切斷速度等の性質に従ひて該角度を夫々の材料に適應する様調節變更すべく構成せる金切鋸機。

電解に依る鐵又は其の合金の窒化法 (10 年特許公告第 1412 號公告 10-4-15、東京市、東京工業大學) 有効に窒化を行ひ以て鐵或は其の合金を硬化し又は其の防蝕を行はんとする目的を以て窒素化合物を含有し且酸素化合物を添加し又は添加せざる融液内に於て鐵若くは鐵合金を陽極として電解を行ふことを特徴とする鐵或は其の合金の窒化法。

ダイス (10 年特許公告第 1427 號、公告 10-4-15、東京市、山内弘) 加工さるゝ材料の分子の入りは常に此曲線面と 45° の方向に生じ又此曲線面は一定の關係にて變化するを以て加工さるゝ材料に無理なる力を與へず加工度合に應じて容易に適當の寸法を算出決定し且つ正確に製作し得るを以て在來のものに比しダイスの壽命を永からしめ且つ作業を容易ならしめ動力節約し工場の能率を擧げ得て製産費を低廉ならしめんとする目的を以て、孔形が近似ハイパボリックコサイン曲線 ($Y = \text{arc cosh } \sin X / \sin X_0$) 面を有するダイス。

アルミナ製造の改良 (10 年特許公告第 1430 號、公告、10-4-15、亞米利加合衆國、カルナイト、コムパニー) 其目的と所要の任意の純度の Al₂O₃ を均等にして且經濟的處理法により生成すると共に其の生成並に Al₂O₃ の分離に隨伴する副生成物を再使用又は

販賣に恰適なる條件の下にて取得し得るが如き方法を得んとする目的を以て、正規のアルカリ金屬明礬より硫酸アルカリ及鹽基性硫酸 Al の含水化合物より成る鹽基性アルカリ金屬明礬を沈澱せしむる爲め 140°C 以上の溫度に該アルカリ金屬明礬を加熱すること前記の含水化合物を其母液より分離すること鹽基性明礬の硫酸 Al 成分を脱水及分解し且之より二酸化硫黃及〔又は〕三酸化硫黃瓦斯を驅出する爲沈澱せる鹽基性明礬を 750~1,000°C の溫度に煨燒すること及可溶性硫酸アルカリ金屬より不溶性 Al₂O₃ を分離する爲煨燒殘留物を浸出することより成れる Al₂O₃ の製造方法。

砂鐵鑄處理液中のチタン・ヴァナヂウム及鐵化合物の分離方法 (10 年特許公告第 1494 號、公告 10-4-19、東京市、宇野昌平) 本邦に多量埋藏する砂鐵鑄より顔料發煙劑として重要なる Ti 化合物及特殊鋼原料並に接觸劑として重要なる V 化合物を得合せて製鐵原料に用ひ得る酸化鐵を得んとする目的を以て、砂鐵鑄或は Ti 鐵鑄等に種々なる處理を施して得たる鹽類溶液の鐵及 V を還元したる後酸の過剩分の大部分或は全部を除去する爲にアルカリ溶液を加へ次にヘキサメチレン、テトラミンを加へて常溫の儘又は之を加温することに依り或は前記のアルカリ溶液の添加を繼續して溶液の酸度を PH 價にて 4~6 の間となし常溫の儘又は之を加温することに依り Ti 及 V の全部及び鐵の小部分を沈澱せしめ此の沈澱物よりは Ti 及 V 化合物を収め濾液よりは空氣酸化に依り鐵化合物を沈澱せしむることを特徴とする砂鐵鑄或はチタン鐵鑄處理液中の Ti、V 及鐵化合物を夫々に分離する方法。

磁性合金 (10 年特許公告第 1497 號、公告 10-4-19、獨逸國、シーメンス、ウント、ハルスケ、アクチエンゲゼルシャフト) 最大竝初期誘磁率高く保磁力低く而して誘磁率の溫度係數小若くは負なる磁性合金を得る目的を以て、20% 以下の Fe、40% にして 69% より少く Ni、18%~55% の Cu を主成分とすることを特徴とする磁性合金。

珪瑯器の酸洗方法 (10 年特許公告第 1314 號、公告 10-4-8、東京市、株式會社日立製作所) 珪瑯被覆を損傷する事なく簡易迅速に他面を清淨ならしめんとする目的を以て、片面に珪瑯を燒付けたる金屬器を温湯に浸漬して豫め加熱し一定高温に保ちつゝ他面に酸を作用せしめ珪瑯燒付に際し生成せる金屬酸化物を除去せしむる珪瑯器の酸洗方法。

電弧銲接用被覆電極桿 (10 年特許公告第 1521 號、公告、10-4-22、神戸市、株式會社川崎造船所) 銲接部の窒化酸化を防止し銲接表面を美麗にすると共に銲滓の剝落を容易ならしむる目的を以て、電弧銲接用電極の周面に粘質物を塗付し鋸屑の如き有機質纖維類、耐火材チタン又はチタン化合物リチウム化合物其他の諸成分を含有する被覆劑を乾燥状態の儘該電極面に加壓して上記粘質物にて固着し有機質纖維體を他の銲融點高き他の微粉末にて包圍する如くなし電弧熱により該有機質纖維體を下完全に燃焼して電弧を安定ならしめ且炭化せる該纖維體の燃焼により一酸化炭素又は二酸化炭素を發生して電弧銲接部を包圍すべくなしたる電弧銲接用電極桿。

混炭油製造法 (10 年特許公告第 1551 號、公告 10-4-24、山口縣、海軍大臣) 長期間安定に且良質の重油代用品を得んとする目的を以て、石炭其他の炭素物質たる固體微粒子を安定に液體燃料中に浮遊せしむる爲安定劑としてアスファルテン又は Al Mg Zn の脂肪酸鹽、樹脂酸鹽ナフテン酸鹽を使用することを特徴とする混炭油製造方法。

強靱なる輕合金製造法 (10年特許公告第1572號、公告10-4-24、(横濱市、横濱工業株式會社)輕量にして而も靱性に富める合金或は鑄造物等を容易に得んとする目的を以て、輕金屬合金類よりなる母體金屬の内部に之れより融點高き補強用の金屬を入れ母體金屬の全部又は補強用金屬に接觸する部分を熔融状態に置いて活性炭素を觸れしめ母體金屬の内部に母體金屬、補強用金屬及炭素よりなる三元合金を生成することを特徴とする強靱なる輕合金製造法。

電解作業に陰極として使用せる水銀の精製法 (10年特許公告第1587號、公告10-4-26、瑞典國、クヌート、ウイヘルム・パルメル)被處理、水銀に全然又は實質的に何等の作用を及ぼすことなくして之が精製を極めて容易且つ經濟的に遂行せしむる目的を以て、鐵屬金屬の鹽類を含有する溶液を水銀陰極を用ひて電解處理に附し該溶液より鐵屬金屬の除去をなし不純となりたる水銀を電解槽より取出し電解操作中に於て水銀の吸収したる金屬を精製劑を用ひて除去し得たる精製水銀を再び電解槽に使用する場合に電解槽外に於て鐵屬金屬を含む不純水銀に水銀鹽、第二鐵鹽ハイポクロライト、硝酸又は硝酸鹽の如き酸化劑を不純金屬の等量よりも小なる量に於て含む酸性溶液を作用せしめて該不純金屬の一部のみを除去することを特徴とする電解作業に陰極として使用せる水銀の精製法。

輕量耐酸耐熱保温材の製造法 (10年特許公告第1681號、公告10-5-3、大阪市、攝津アスベスト株式會社)輕量にして耐酸耐熱性を有する優良保温材を得んとする目的を以て、石綿の如き礦物纖維に珪酸曹達カゼイン及鹽化アンモニウムの濃厚水溶液を接着劑として加へ充分捏和混合し熱氣を以て加熱し輕く平平板に壓搾して成型固着せしめたるものを素材とし所要の厚きを得る爲に同一接着劑を塗りたる素材を層合し之を別に同一接着劑を吸収せしめ加熱乾燥して得たる石綿絲を以て縱横網目狀に縱合して補強せるものを再び熱氣乾燥せしめて完成する保温材の製造法。

管接手の改良 (10年特許公告第1682號、公告10-5-3、佛國、ニコラス、フヘルマツク)自動車、モーターボート又は飛行機用の燃料供給管の如き相當大なる振動を受くる部分に使用するも液を漏洩せしむる如き事なく然も製作費低廉にして組立分解容易なる管接手を得る目的を以て、圓錐狀承口と一體に形成したる母螺と承口を管の擴開部分上に牽引する如く母螺を管支持圓錐上に締付くる際管の擴開部分を支持する小なる頂角を有する圓錐片とよりなる接手に於て承口(g)の頂角を管支持圓錐(c)の頂角より小ならしめ且承口の前端を管の擴開部分(d¹)(e¹)の最大直徑以下の部分に於てのみ該擴開部分(d¹)(e¹)と齧合せしむべくなしたる事を特徴とする金屬管接手。(圖略)

酸化鐵電極の製造法 (10年特許公告第1684號、公告10-5-3、東京市、東京工業試験所長)酸化度高き化學的物理的に耐久性大なる白金代用電極を得んとする目的を以て、酸化第二鐵の熔融に依る酸化鐵電極の製造に於て其の成型鑄造後直に高温の状態に於て過熱蒸氣の如き酸素を含むガス類又は熔融硝酸鹽例へば熔融硝酸アルカリの如き酸素を放出し易き酸化劑にて酸化處理を行ひたる後緩冷操作を施すことを特徴とする酸化鐵電極の製造法。

タングステン鍍を含む鍍石の處理方法 (10年特許公告第1695號、公告10-5-3、大阪府、化學研究所長)W鍍の選鍍を簡單にし又は省略してWの分離回收を容易ならしめ或はW鍍と共に錫石を含む鍍石より簡単に且經濟的に錫を含まざるW化合物を得んとする目的を以て、W鍍又は、重石等を含む鍍石にアルカリ金

屬の鹽化物を加へて加熱し同時に水蒸氣又は他の氣體を通してW分を水に可溶性のW酸鹽となし之を抽出するW鍍を含む鍍石の處理方法。

ニッケル・チタン鋼製永久磁石 (10年特許公告第1696號、公告10-5-3、仙臺市、金屬材料研究所長)原特許に於ける永久磁石と同等又は以上の性能を有し残留磁氣或は抗磁力を更に増加すべく永久磁石を得る目的を以て、Ni 3~50%、Ti 1~50%、Ag Cu Al Asの何れか1種又は2種以上を20%以下〔但しAlは各2%以下の場合を除く〕鐵殘餘量の割合を以て含有する合金より成るMi-Ti鋼製永久磁石。

ニッケル・チタン鋼製永久磁石の改良 (10年特許公告第1703號、公告10-5-3、仙臺市、金屬材料研究所長)原特許に於ける永久磁石と同等又は以上の性能を有し残留磁氣或は抗磁力を更に増加すべく永久磁石を得る目的を以て、Ni 3~50%、Ti 1~50% Mn V Mo Wの何れか1種又は2種以上を20%以下〔但しMn Vは各2%以下の場合を除く〕Fe殘餘量の割合を以て含有する合金より、成るMi-Ti鋼製永久磁石。

Ni-Ti-Co鋼製永久磁石の改良 (10年特許公告第1704號、公告10-5-3、仙臺市、金屬材料研究所長)原特許に於ける永久磁石と同等又は以上の性能を有し残留磁氣或は抗磁力を更に増加すべく永久磁石を得る目的を以て、Ni 3~50%、Ti 1~50%、Co 1~60% Al Cu Arの何れか1種又は2種以上を20%以下〔但しAlは2%以下の場合を除く〕Fe殘餘量の割合を以て含有する合金より成るNi-Ti-Co鋼製永久磁石。

Ni・Ti・Co鋼製永久磁石の改良 (10年特許公告第1705號、公告10-5-3、仙臺市、金屬材料研究所長)原特許に於ける永久磁石と同等又は以上の性能を有し残留磁氣或は抗磁力を更に増加すべく永久磁石を得る目的を以て、Ni 3~50%、Ti 1~50%、Co 1~60% Mn Wの何れか1種又は2種を20%以下〔但しMnは2%以下の場合を除く〕Fe殘餘量の割合を以て含有する合金より成るNi-Ti-Co鋼製永久磁石。

永久磁石製造合金 (10年特許公告第1711號、公告10-5-3、獨逸國、フリードリツヒ、クルツプ、アクチエンゲゼルシャフト)假令何等の豫備加熱處理を施さずとも冷却速度の範圍が比較的大なる場合に在りても満足すべき磁性を有する永久磁石製造用合金を得んとする目的を以て、鐵以外にNi 10~35%、Al 5~20%及Co及Cuを各0.5~15%含有せしめ其の際CoとCuとの比を5:1~1:2の範圍内となし且場合に依りてはCuの一部或は全部をAg或はSn若しくはAg及Cuを以て代用せしめ更に之にCr、Mn、Mo、Si、Ti、U、V及W等の元素の一つ或は一つ以上を全量にて5%を超過せざる範圍内にて加へるか或は加へずして成ることを特徴とする永久磁石製造用合金。

極片附酸化金屬製磁石 (10年特許公告第1623號、公告10-4-30、東京市、三菱電機株式會社)磁力強大にして且破壊に對する強度大なる酸化金屬製磁石を得る目的を以て、形狀に依り又は使用態様に依り磁石として殆ど有効に作用せざる如き部分を有し又は生ずる酸化金屬製磁石に於て其の酸化金屬製磁性體の極位置に該磁性體の全體積に略均一に磁力線を通ぜしむる如き形狀を有する磁率高き性質よりなる磁極片を接着せしめたることを特徴とする極片附酸化金屬製磁石。

鋼基合金 (10年特許公告第1643號、公告10-4-30、東京市、磐城炭鐵株式會社)特殊の軟性と硬度を有し且機械的及化學的に優

秀なる性質を有しセメント、ミルク注入唧筒特にクラウト唧筒の球弁座として好適なる銅基合金を得んとする目的を以て、Cu 61~64%、Zn 27~30%、Sn 2~4% と其他合金成分として Al、Fe 及 Mn の 1 種~3 種を 2~10% とを含有せしめて合金し更に之に熱處理を施して生成せる銅基合金。

高力特殊鑄鐵 (10 年特許公告第 1644 號、公告 10-4-30、東京市、海軍大臣) 製造簡易且比較的廉價にして然も從來知られたる鑄鐵に比し遙に強大なる抗張、抗折及抗壓力と優秀なる耐摩耗及耐疲勞性を有し且耐熱性に富む鑄鐵を得んとする目的を以て、C 2~3.5%、Si 1.5~2.5%、Mn 0.5~1%、Cr 0.2~1%、Cu 1~4%、Mo 0.2~2% 及殘部 Fe を含有せしめ鑄造状態又は熱處理状態の高力特殊鑄鐵。

石炭ター、礦油等より高價値の而も低沸點の炭化水素を製造する方法 (10 年特許公告第 1716 號、公告 10-5-4、リヒテンシュタイン國、インターナショナル、ハイドロジェネーション、パテント、コムパニー、リミテッド) 石炭類、ター、礦油等より高價値にして而も低沸點の炭化水素を最も有効に且經濟的に得むとする目的を以て、蒸餾性炭素質物質をハロゲン即ち Cl、Br 及 F の 1 種又は夫れ以上を含有するハロゲンの有機化合物並に金屬物質即ち金屬酸化物、金屬水酸化物金屬硫化物又は金屬磷酸鹽又は週期律の第五群及第六群の金屬或は上記の化合物以外の前記の週期律の第五群及第六群の金屬の化合物と接觸せしめつゝ水素を含有する瓦斯を以て處理することより成る蒸餾性炭素質物質破壞的水素添加方法

錫被覆鉛合金製チューブ製造法 (10 年特許公告第 1717 號公告 10-5-4、大阪市、佐々木貞) Sn 層、Pb 層間に氣泡又は肌離を生ずることなく安易且廉價に錫被覆鉛合金製チューブを製造し得べからしめんとする目的を以て、中央部に漏斗狀凹孔を有する彎曲鉛合金厚板に夫々中心に透孔を備ふる漏斗狀錫片及狀錫片を内外兩側より嵌合壓卷する工程と之を所期の管狀體の數分の一程度の長さに展延する工程と次に全體を厚く錫鍍する工程と最後に所期の形狀に展延する工程との順序結合を特徴とする錫被覆鉛合金製チュー

ブ製造方法。

電氣的電極燒成方法 (10 年特許公告第 1726 號、公告 10-5-4、富山縣、高柳健治) 先づ燃料を使用し次に電氣的に燒成する所謂二重燒成法の如く莫大なる建設費を要せず而も二重燒成法に比し優るとも劣る事なき良結果を得べく從來公知の電氣燒成法に於て免れ得ざれし龜裂破碎等を來さざる新燒成法を得んとする目的を以て電氣爐用變壓器の一次側に電壓調整器を設け一定電壓の下に於ける電力消費量の緩期期並に平定期を經過して爐内各部の發熱状態に著しき不均齊を呈するに反し電壓を低減せしめ従つて電力を低減せしめ且之を一定に保つべく電壓を加減し次に發熱状態の均齊を示すに及びて電壓を上昇せしめ従つて電力を増加上昇せしめ其上昇度が前記平定期に於ける電力消費量と同一程度に到達したる時其の電力を一定に保つべく電壓調整器に依り電壓を低下せしめ而て電力増加の傾向を示さざる點に於て適當なる値だけ電力を徐々に増加せしむる如く電壓を上昇せしめ其電力に達すれば再び其電力を一定に保つ如く電壓を低下せしむる事を繰返し前記電壓調整器に依り電壓を調整することを特徴とする電氣的電極燒成方法。

特 許 抜 萃

特許 番號	名 稱	特 許 權 者	公告拔萃 載本誌番號
109835	金屬製耐酸容器製造裝置	山下五六	第 20 年 12 號
109890	鐵及鐵合金の防錆處理方法	金屬材料研究所長	第 18 年 11 號
110055	鑄造用壓迫材	江副清重	第 20 年 11 號
109937	Ni、Ti 鋼製永久磁石	金屬材料研究所長	第 20 年 12 號
109970	内燃機關用アルコール性代用燃料	皆川宗紀	なし
110077	金屬電氣燒付器	株式會社川崎造船所	なし
110088	Mg 及其合金の防蝕法	住友伸鋼鋼管株式會社	なし
110055	鐵地象嵌方法	小倉源次郎	なし
100026	混炭油製造法	海軍大臣	なし

第3回特許局發明展覽會出品勸誘 當局より日本鐵鋼協會關係者に對し出品斡旋の依頼ありたり其全文並に商工省告示を茲に掲ぐ

(書翰) 10 特發展第 18 號 昭和 10 年 4 月 25 日 特許局長官中松眞郷(出)

發明考案の普及發達を圖る爲め當局に於ては年々發明展覽會を開催することと相成居候處今般其の第 3 回展覽會を來る 11 月 1 日より 14 日に至る 2 週間に亘り東京市麴町區丸ノ内三丁目府立東京商工獎勵館内に於て開催致候に就ては本會の目的達成を冀贊せられ度別紙印刷物に付委細御了知の上出品斡旋方可然御高配相煩度此段得貴意候也

添付書類 特許局發明展覽會規程 第三回特許局發明展覽會に關する告示、出品申込書 出品申込心得書 出品計畫書 解説書 以上の内「第三回特許局發明展覽會に關する告示」を次に掲載し參考とす。

第 3 回特許局發明展覽會に關する告示

第 3 回特許局發明展覽會の會期、會場、出品申込期日等次の通定む 昭和 10 年商工省告示第 35 號)

- 1 會期 自昭和 10 年 11 月 1 日至同 14 日
- 2 會場 東京市麴町區丸ノ内 3 丁目府立東京商工獎勵館内
- 3 本會事務は 10 月 24 日迄は特許局に於て、10 月 25 日より 11 月 17 日迄は會場に於て、11 月 18 日以降は特許局に於て

之を取扱ふ。

- 4 出品せんとする者は出品申込書、解説書、出品計畫書及出品物(特許局發明展覽會規程第 10 條第 2 項の規定に依り雛形又は圖面を差出す場合に於ては其の雛形又は圖面)を 6 月 1 日より同 30 日迄に特許局に差出すべし
- 5 特許局發明展覽會規程第 12 條第 1 項の規定に依り出品物を差出す者は 10 月 25 日より同 29 日迄に會場に搬入すべし
- 6 出品せんとする者は陳列棚に在りては小間數を、床面に在りては坪數を申出づべし
陳列棚の小間は奥行 0.66m 間口 1.21m とし床面坪は 1.81m² とす
- 7 出品物は第 4 號又は第 5 號に規定する期間午前 9 時より午後 4 時迄に搬入すべし
- 8 出品物には必ず各品毎に出品申込書に記載したると同一の番號出品人の住所又は假住所及氏名を記載したる小札を附すべし
- 9 出品物又は出品人の特許局又は會場への往復に對しては官設鐵道に於て運賃割引の特典あるを以て必要の向は特許局に對し割引證の交付を請求せらるべし
- 10 會期の初日は招待日とす
- 11 出品人が所定の期間内に直接引取を爲す場合を除き出品物は特許局に於て之を返送す、但し其の荷造費及運搬費は出品人の負擔とす